

2025 年 11 月 21 日

2026 年 3 月期 第 2 四半期（中間期） 決算説明会 質疑応答要旨

株式会社 平和
経営企画グループ

2025 年 11 月 18 日に開催いたしました「2026 年 3 月期 第 2 四半期（中間期） 決算説明会」における質疑応答の要旨は以下のとおりです。

【遊技機事業】

Q1：SNS 等で話題のパチンコの 3,000 発規制について、見解を教えてください。

A1：SNS などでは噂が散見されるが、一部特殊な出玉仕様が制限される見込み。日工組（パチンコメーカーの組合）で議論され、近々発表・施行される予定。あくまで一部の仕様のための制限であり、多くの仕様には影響がない制限と認識している。業界・メーカーとしては、大きな影響はないと考えている。

Q2：パチンコ事業の復活には、過去の説明会において、IP 獲得と開発力が課題とのことだったが、成果と今後の見通しは。

A2：数年前より、若年層を中心としたユーザー層に訴求できる新規 IP 獲得を重点テーマとして取り組んでいる。昨年、新規 IP となる 2 機種（ToLOVE るダークネス、バンドリ！）を市場投入。また、今期の下期から来期にかけて複数の新規 IP 搭載機を計画的に投入予定。IP だけではなく、スペックやゲーム性といった基本性能や IP の魅力を最大限に伝える演出設計など、総合的に商品力の高い機種がヒットする。当社のパチンコ機は計画通りに市場投入が進んでいる一方で、販売台数の拡大には至っておらず、喫緊の課題。最大のテーマは「ヒット機種の創出」であり、来期以降、パチンコ事業においても成果が出てくると考えている。

Q3：パチスロ機「L 主役は銭形 5」と パチンコ機「e ルパン三世 VS キャッツ・アイ」の稼働状況は。

A3：「L 主役は銭形 5」は、納品から約 1 ヶ月経過で現状高稼働。同時期に販売された機種の中で、2 番手に位置しているものの、ヒット機種レベルには至っていない。「e ルパン三世 VS キャッツ・アイ」は、ルパン三世とキャッツ・アイのコラボ機で、こちらも稼働は、同時期に販売された機種の中で 2 番手だが、ヒット機種レベルには至っていない。両機種ともに、追加販売やヒット機種という所までは至らずそこそこの稼働という状況。

【ゴルフ事業】

Q4：アコーディア・ゴルフとの PMI 進捗状況と、今後の来場者数・顧客単価向上策を教えてください。

A4：運営面・管理面で統合作業を着実に推進中。PGM とアコーディア・ゴルフで「GRAND」シリーズとしてブランド展開を開始、「Cool Cart」を両社全ゴルフ場に導入完了等、お客様にとってわかりやすい部分から積極的に統合作業を進めている。来場者数については、PGM、アコーディア・ゴルフの統合で競争力が増し、インバウンド需要の取り込み、女性・若年層の拡大といった新規顧客の獲得に向けた施策を進めており、前年を上回る状況。顧客単価については、アコーディア・ゴルフにも積極的なバリューアップ設備投資を実施し、段階的な価格引き上げを行っており、来期以降、効果が出る見込み。仕入れ等のコスト面は、来期から本格的な効果を見込む。

【株主還元・配当方針】

Q5：配当に期待して投資している投資家は多いと考える。中期的な目線での配当方針を教えてください。

A5：企業価値の増大を図りながら、株主の皆様へ利益還元を図ることを経営の最重要課題と考えている。「中期経営計画 2027」にて公表の通り、3 年累計で約 600 億円の借入金返済を計画。キャッシュイン配分として、ゴルフ事業の成長投資と借入金の返済を重点的に実施予定。成長力と返済力のバランスを見ながら判断する。更なる業績向上が見込める状況になった場合には、事業計画、財政状態、経営成績等を総合的に勘案した上で、配当や自社株買いなど株主還元・利益還元方針についても見直しを検討する。

以上